

令和4年4月6日

令和4年度 入学式告辞

九州工業大学長 三谷康範

新入生の皆さん、また、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。春爛漫の今日、九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、教職員並びに在学生一同そして本学に関わる多くの人々にとってこの上ない喜びであります。新入生の皆さんはもちろん、新入生の皆さんを支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、九州工業大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い、一昨年度は、やむなく入学式を中止しましたが、昨年度は参加者を最小限に絞り込み、入学式を挙行することができました。コロナ禍は一進一退を繰り返し、未だ収束する気配が見えず今日に至っていますが、今年も今日このように皆さんをお迎えすることができました。我々はウィズコロナの生活様式を獲得しつつありますが、皆さんにおかれましてはこの何年か様々な苦労を経験されたと思います。改めて、この日を迎えられました皆さんのご努力に敬意を表します。

これから皆さんが学ぶこの九州工業大学は、1909年に開校した私立明治専門学校を前身としています。創立者は、ここ北九州市に本社を置く安川電機の創業発起人としても有名な安川敬一郎氏です。ここで少し当時の地理と歴史を紐解いてみましょう。当時「鉄は国家なり」の政策を推進してきたドイツを模範とした日本政府は、ここ北九州の地に官営八幡製鐵所を建設し、1901年に東田第1高炉の運転が開始されました。この場所に建設された大きな理由の一つは、本学飯塚キャンパスの近隣にあった筑豊炭田の豊富な石炭を、鉄道と遠賀川の水路によって運搬することが可能であることだったと言われています。筑豊炭田の開発には多くの人々が関わっていますが、その一人が安川敬一郎氏です。

安川氏は、石炭販売業を開始し、石炭採掘を行う明治鋳業を現在の飯塚市で興し、製鉄炉材の耐火煉瓦を製造する黒崎窯業など様々な関連企業の設立に関わっています。安川電機は明治鋳業の電気用品開発のために設立されました。このように北部九州の地に一大産業連関を形成し、この地から日本の経済発展に貢献しました。そしてこうした工業の発展に不可欠な技術者育成のために私財を投資し明治専門学校を開校しました。安川氏の偉大なところは、産業の発展には欠かせない技術者の重要さを認識し、成果が現れるまでに時間を要する未来に投資を行ったことです。石炭は今では地球環境保全の面では悪者になっていますが、石炭産業や製鉄産業に関連して多種多様な技術が生まれ、これらが脱炭素社会の形成に貢献するようになってきています。私たちはこうした伝統・資産を引き継ぎ様々な形で成長させていくことができるのです。

さて、明治専門学校開校にあたり初代総長としてお迎えした山川健次郎先生は、幕末から明治維新を白虎隊の一員として激動の会津の地で過ごされ九死に一生を得たのち理学の道に進まれ、米国留学の機会を得て、苦学ののちに日本人初の理学博士号を取得されています。米国留学が山川先生の人生の航路に大きな影響を与えたことは疑いの余地はありません。このように貪欲に外の世界を知ろうとすることは人格形成に欠かせない機会であります。しかしながら、新型コロナウイルスは私たちから世界を往来する機会を奪ってしまいました。本学ではコロナ禍前までは年間延べ700名以上の学生が海外渡航経験を得ていました。この2年間、海外渡航が制限される中、遠隔会議システムが発展し、学生のみなさんも海外と気軽に繋いでコミュニケーションの機会を得ています。しかしながら百聞は一見にしかずで、実際に行くと行かないでは雲泥の差です。世界を自らの目で見て、体感することによって人生観を変える出来事にも出会えます。コロナ禍の収束後はいち早くもとの状態を取り戻し新入生の皆さんにも刺激的な経験を持ってもらいたいと切に願っております。その一方で、気軽にオンラインで繋がることの有効性にも気付きました。これからはオンラインで繋いで学びながら実際に訪問するブレンド型が主流になると考えております。

山川先生は、明治専門学校の開学にあたって、「技術に^{かんのう}堪能なる士君子（すなわちジェントルマン）」の養成を建学の理念に掲げました。これは単に技術だけに精通した者ではなく、道徳心も兼ね備えた技術者を育成するという山川先生の想いです。また、自身の専門を極めても他の様々な分野の知識を修めていなければ完全な専門技術者ではない、との主旨の言葉を残されています。社会常識と豊かな教養を持った世界に通用する技術者を養成するという、まさに現代社会においても必須とされるグローバルな人格育成を唱えた先駆けです。こうした建学の理念は、110年以上の歴史を越えて脈々と伝えられ、現在に至っています。皆さんもここ九州工業大学で自身の興味ある技術分野を探求するとともに、たくさんの方に興味を持ってたくさんの友を得て世界とも繋がって実りある大学生活を満喫してください。

現在、「未来の技術に出会うキャンパス」を目指して、キャンパス内に無人店舗、5G やさらに次の世代の通信技術である Beyond 5G に関するテスト環境、多様性あふれる人々が集まる共創空間など様々な仕掛けを順次構築して皆さんをお待ちしています。これによって、キャンパス内には学生や教員だけでなく、企業人やスタートアップを興そうとする熱気あふれる人々が集い、その中から皆さんが自らの将来を想像するためのモデルケースを見つけ出すこともできるようになります。異質な技術と人の出会いがイノベーションを創出します。

課題は技術を進歩させ、技術の進歩はまた新たな課題を生じさせます。しかし、それに対し、皆さんが、柔軟な発想のもとで、今はまだない技術や方法を生み出し、それらを解決していくこととなります。多様な考え方を認め合い、知恵を出し合って、技術の裏に潜むリスクを見極め、リスクを克服した社会的価値を生み出す課題解決に貢献することができるように、学生時代に学び、考え、

多くの事を試みてください。九州工業大学ではこうした環境づくりに特に力を入れ、皆様をお待ちしております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、まだ様々な制約がある中ではありますが、入学された皆さんが、かけがえのない日々の暮らしや人の命の尊さについて考え、自らの健康に十分留意され、生活と学びを楽しみ、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされまことを心から希望し、告辞といたします。本日は誠におめでとうございます。